

DP (教育目標)

- DP 1 理学療法について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 理学療法を提供するために必要な技能を身に付け、活用することができる。
- DP 3 グローバル化及び少子高齢化が進む社会において求められる語学力、情報リテラシー、組織運営のマネジメントについて理解し活用することができる。
- DP 4 理学療法の提供に必要な倫理観を身に付け、人の尊厳について理解し行動することができる。
- DP 5 国内外を問わず、急速に変化する社会情勢に目を向けながら、医療、保健、福祉に関する問題に関心を持ち、その理解に向けて考え行動することができる。
- DP 6 習得した知識・技能を活かして、主体的に目標を立てて行動し、課題を発見し、解決に努めることができる。
- DP 7 生涯学習する意欲と能力を身に付け、多職種間で連携・協働するための知識、コミュニケーション能力、思考力、協調性を持って行動することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	SDGs該当項目			
全学共通基盤科目	Fundamentals of English I	2	必修		This English four skills course is designed to build upon students' basic English knowledge at a linguistic and cultural level, and to develop their communicative ability. The course targets the use of CEFR-J A1-B2 vocabulary and CEFR A1-A2 grammar forms in different communicative contexts that enable students to gain confidence in their use and understanding of English.			◎				○	17			
	Oral Fluency I	2	必修		This speaking course aims to improve the student's ability to use English primarily in a university context. By the end of the course the student will be able to make introductions and small talk, discuss class-related problems with an instructor and ask questions about, and give opinions on, the weekend.			◎				○	17			
	倫理学概論	2	選択推奨		いのちあるものの「痛み」に、わたしたちは、こころを動かせるか。痛みを覚えるどころか、先んじて身代わりになれるか。だれもが相手の立場に立って考え、他のだれをも同じ人間として、共に生きられるか。それとも、これほど数多く集まって暮らす限りは、見ず知らずの他人を隔てるほかないか。わたしたちは、共感に欠け、他者の立場に立ってない他者も同じ仲間とする生命共同体を築けるか。以上、人間に課せられた問いを共に考える。				◎		○		10			
	社会学	2	選択推奨		社会とは個人の集合という観点から理解することには限界があり、そこに社会学の存在意義があるとされる。社会学は比較的歴史の浅い学問であり、精緻さに欠けるという批判もあるが、逆に捉えるならば、社会学はこれまでの硬直した学問体系では捉えることの出来ない、マクロからミクロまでの、様々な人と人との結びつきを分析する可能性が秘められている。 本授業では、社会学の成立から発展に至るまでの様々な学説を可能な限り平易に説明しながら、社会学の考え方を紹介する。これにより履修者は、社会学の形、可能性を理解しつつ、「社会的発想」を体得することで、それぞれに応じた分析方法を身に付ける基礎とすることが出来る。						○	◎		16		
	統計学	2	選択推奨		統計的なものの考え方を理解し、統計データ解析のための基礎的な手法を習得する。 1. 記述統計の基礎：統計データは数字の集まりであり、そのまま眺めていても全体の傾向は見えてこないが、平均値、グラフ化などの統計処理を行うことにより、データの特徴を把握することができる。統計データの記述・整理の方法の基礎を習得する。 2. 確率変数と確率分布：統計的推測においては、統計データの発生メカニズムに対して、様々な統計モデルを仮定する。統計モデルを定式化するために必要不可欠である確率変数と確率分布の基礎を理解する。 3. 推測統計の基礎：統計的推測とは、サンプルデータに基づいて母集団分布に関する推測を行うことである。統計的推測には、母集団分布の特性値を推定するための方法（統計的推定法）と母集団分布に関する仮説を検証するための方法（統計的検定法）がある。							○	◎		9	
	デジタルアプリA	2	必修		Macintosh (Mac) OSを主な対象として、パーソナルコンピュータ (PC) の基本的知識、タイピングなどを含む操作方法を学ぶとともに、ハードウェア・ソフトウェアに関する知識などについて学習する。また、Microsoft Office365を用い、文書作成ソフト (Microsoft Word)、表計算ソフト (Microsoft Excel) およびプレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) の基本を学ぶ。			◎			○	○		9		
	アカデミック・スキルズ	1	必修		大学のまなびについて、(i) 個人々の自律というその本質を理解し、(ii) 単位制度、(iii) 学内施設利用に習熟する一方、(iv) 予習、復習を含め授業学習にあたって求められている基本的な能力を養う。	◎						○	○		3	
	身体の理解	2	選択推奨		ヒトの身体は様々な器官が相互に関連して成り立っている。これらの器官が複雑に、協調しながら運動は起こっている。この授業ではヒトの身体の構造や動きについて学ぶとともに、運動を起こす骨や筋について理解する。	◎							○		3	
	教育学			選択		教育学の目的である人が物事を学ぶための方略を理解することを目指し、さまざまな学習方法、患者教育方法について理論と実践について学ぶ。							◎		4	
心理学			選択		人の心の基本的な仕組みと機能、環境との相互作用の中で生じる心理的反応、人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題、日常生活と心の健康との関係、心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解することを目指す。以下の項目を理解する。 ①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。 ②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。③日常生活と心の健康との関係について理解する。④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解できる。							○		4		
域学共創プロジェクトF	2		選択		・地域のスポーツ競技団体所属者のフィジカルチェック ・チェック内容の説明・フィードバック ・チェック内容に応じたエクササイズ指導 「競技内容」「競技レベル」「年齢」によるフィジカルレベルや要求能力の違いを体験するとともに、それに合わせたエクササイズ指導方法の立案を学び、実践する。 ・スポーツ競技者のフィジカルチェック ・地域在住の中高齢者の身体機能測定 ・測定内容の説明・結果のフィードバック ・結果に応じたエクササイズ指導 若年者～高齢者まで、全年齢を対象に、「健康増進」「障害予防」の重要性を学ぶとともに、ライフステージの変化に応じて必要な機能の違いを学び、また生活を豊かにするために必要となる「運動」について理解する。そして、それらを企画・立案する経験を得る。						○	◎	○	○		3





多職種間連携教育実習	1	選択		講義・演習で学んだ多職種間連携の知識を基盤として、現場における多職種間連携の実際を学ぶ。実技・演習を通して、実際の現場で行われる多職種の業務・専門性を知るとともに、理学療法士として必要な知識・技術を理解する。またチームを形成するためのコミュニケーション技能や伝達手段を知る。	○	○					◎	3	
生活環境論	1	選択		障害者が自立した生活をおくるためには、環境の整備が大切である。その環境とは、対象者が生活する住環境にとどまらない。障害者の日常生活において、セルフケアを包括したADLについて、独力で行える能力を獲得させることがQOLを守ることにつながるが、外出などの社会参加においても同様である。本講義では、ユニバーサルデザインを意識したまちづくり、障害者をとりまく生活環境について学ぶ。	◎							11	
理学療法教育法	2	選択		理学療法養成教育の歴史、内容について理解し、理学療法士国家試験の出題基準について知る。また、患者担当型と診療参加型の臨床実習形態について知識を得るとともに、臨床実習前後の評価について説明できるようになる。さらに、臨床教育の方法や生涯学習制度など、理学療法に特化した教育内容について学習する。	◎			◎		○		4	
理学療法概論	2	必修	○	理学療法学の全体像を把握し、理学療法士の臨床業務についても理解を深め、理学療法士としての資質を醸成する。理学療法分野における歴史、定義、種類について知る。また理学療法士学生の立場を認識し、医療従事者として必要なマナー、接遇ができるようになることを目指す。	◎				○			3	
理学療法研究法	1	必修	○	現在、理学療法に求められているのは治療の根拠（エビデンス）を確立することである。効果的治療の中には経験則によるものが存在するものも事実である。理学療法的重要性や必要性を啓蒙し、これらを解決するには臨床研究の積み重ねが重要である。本講義では様々な実験・研究法を提示して結果のまとめ方や考察の仕方などを教授し、主に臨床研究に必要な基礎的な知識を獲得させることを目的とする。	◎					○		3	
世界の理学療法	1	選択		主要国で実践されている理学療法の現状を知り、本邦における理学療法との違い、また各社会における理学療法士の立場の違いを認識する。理学療法を通してグローバルな視野を養い、日本に留まらず世界で活躍できる理学療法士の資質とは何か、理解できるようになることを目指す。本科目終了時には、本邦における理学療法と理学療法士のあり方を客観的にとらえ、主要国との違いを説明できることを目標とする。	○		○			◎		17	
医療統計学	1	選択		医療分野において、疾病と要因の因果関係の把握や治療の効果判定などを目的に収集されたデータを、根拠に基づいて解釈・評価するための知識を学ぶ。統計学の基礎的手法の一つである3グループ以上の検定法とノンパラメトリック手法について学ぶとともに、医療統計解析の研究デザイン、及びその結果を解釈・評価するための基本的な考え方と方法について学習する。	◎					○		3	
卒業研究Ⅰ	1	選択		指導教員の指導のもとで研究テーマに沿った実験研究や調査研究等を一人で実行し研究論文を作成する能力の素地を養う。研究テーマ決定に必要な文献収集の方法や、研究計画の作成、研究実施能力、データ分析能力、論文作成能力など、研究遂行の一連の流れについて理解するとともに、実際に経験することで理学療法研究について理解を深める。					○		◎	○	3
卒業研究Ⅱ※	1	選択		卒業研究Ⅰで学んだ内容を基盤として、実際に研究テーマの決定、実験・調査計画の遂行、データ分析、結果の解釈を通して理学療法研究の一部を行えるようになることを目指す。また、論文作成に必要な文献整理や先行研究との対比などを通して、文献の読解力を高める。研究論文を作成する過程を通して、論理的思考と学術的表現法を理解する。					○		◎	○	3
基礎理学療法学	2	必修	○	理学療法実施において基礎となる疼痛や筋緊張異常、関節可動域制限、筋力低下、創傷・靭帯損傷、骨損傷、運動麻痺、感覚異常、平行機能低下、認知機能低下などの病態とそのメカニズムについて学ぶ。	◎		○					3	
基礎理学療法学演習	1	必修	○	種々の疾患に共通する機能障害（関節可動域制限、筋力低下、筋緊張異常、持久力低下、感覚異常、姿勢異常、バランス・並行機能低下）や能力低下（起居・移動能力やセルフケア能力）に対する基本的な運動療法について学び、実践する能力を養う。	○		◎					3	
バイオメカニクス論	1	選択		人体の動きを力学的側面から理解するための基礎的なバイオメカニクスを学ぶことを目的とする。歩行を代表とする各種動作・運動における関節運動、筋出力、床反力などのメカニズムを理解し、その測定方法（動作観察・動作分析含む）も学ぶ。3次元動作解析装置による実際の測定も実施する	◎							3	
職業倫理管理学	2	必修	○	医療人として必要になる医療安全、職業倫理、感染対策について理解するとともに、理学療法の職場管理において求められる診療報酬や診療記録、カルテ管理を学ぶ。また、理学療法機器の点検や法定必要物品、人事考課や労務管理など理学療法実施にあたり必要となる職業管理について学習する。さらに、理学療法教育の一連の流れを理解することで職業人集団の教育管理に必要な素養を養う。	○			◎	◎			8	
基礎理学療法評価学	2	必修	○	理学療法は、検査・測定や情報収集から得られた結果を統合し解釈することにより、治療指向的な問題点を抽出し、目標を設定、プログラムを立案することから始まる。本科目においては、理学療法士が行う検査測定結果から目標設定、理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。	◎		○					3	
基礎理学療法評価学実習	1	必修	○	疾病に関係なく理学療法士が実施する種々の機能障害を把握するための検査測定技法を修得し、その結果の解釈について学ぶ。特に本科目ではバイタルサインや医療面接、機能形態計測、関節可動域、筋力の評価について理解を深め、それぞれの検査・測定し解釈する技能を養う。	○		◎					3	
疾患別理学療法評価学	2	必修	○	様々な疾病・疾患によって生じる代表的な障害に対する理学療法評価法の基礎を学ぶ。また、ビデオなどの動作解析画像を解釈できるようになり、理学療法実施上の留意点を理解できるよう学習する。	◎		○					3	





理学療法学セミナーII	1	必修	○	模擬臨床場面を設定し、実践的な事例教育の中から、チーム医療における理学療法士の独自性と専門性を考察させる。さらに本科目では、理学療法士が扱う情報の重要性を理解し、その管理方法や漏洩防止作、コンプライアンスや医療広告ガイドラインなどに就いて学び、理学療法の実践と法整備との関わりについて理解する。	◎	◎	○	○				○		3
理学療法技術演習（発達）	1	選択		発達過程に生じる障害や、高次脳機能障害など、広く神経系疾患に関する理学療法治療法について、専門的に学ぶ。特に最新知見を収集し、各障害に応じた適切な理学療法を選択・実施できる知識・技術を身につける。	○	◎						○		3
理学療法技術演習（徒手）	1	選択		徒手技術の基本的な考え方・生理学的理論・運動学的理論・臨床への応用を学習する。特に運動器疾患に対する整形徒手療法や固有受容性神経筋促進法など現在、我が国で行われている様々な徒手技術について紹介する。	○	◎						○		3
理学療法技術演習（呼吸）	1	選択		呼吸器障害、循環器障害、代謝障害と中心に、最新の知見を紹介するとともに、各代表疾患に対する理学療法の実践を学ぶ。また、各領域の専門的な治療や多職種連携など実践的な学びを目的とする。	○	◎						○		3
理学療法技術演習（先進）	1	選択		発達著しいリハビリテーション工学の知識を基に、最新の医療機器を紹介するとともに、リハビリテーションロボットや新たな評価機器の応用方法、またそれらの情報収集方法を学び、臨床における最新知見の収集方法を理解する。	○	◎						○		3
理学療法技術演習（スポーツ）	1	選択		スポーツ分野における理学療法士の関わりを理解するとともに、各競技特性に応じた評価方法や介入方法を学ぶ。さらにスポーツ現場での理学療法士の取り組みを紹介し、実践的な学びを提供する。	○	◎						○		3
地域理学療法学	2	必修	○	近年、在宅医療が充実し、障害をもちながらも在宅生活を営む障害者が増加している。地域理学療法は単に医療機関以外での理学療法ではなく地域理論や異なる技術を包含している。この視点から地域理学療法法の必要性について論じる。また、国際支援や災害時、健康増進や介護予防など、多岐にわたる近年の地域理学療法法のあり方について教授する。	◎	○					◎			3
地域理学療法学演習	1	必修	○	地域理学療法学の知識を基盤として、福祉施設および福祉職種の理解、チームの組み方、病院とは異なる理学療法法の目標と指導方法の違いを学ぶ。また演習を通して生活活動の自立やQOLの向上を想定した目標設定、理学療法法の進め方、さらに介護予防としての理学療法の実践を知る。	○	◎					◎			3
理学療法学総合演習A	1	必修	○	基礎医学系に関する知識の統合を図るため、講義とグループ演習のハイブリッド形式にて知識と理解を深める。特にこの科目では解剖学・生理学・運動学を基盤とし、基礎的な疾患や障害を論理的に理解できるように指導する。教員の専門性を生かし、多方面からの視点での統合解釈ができるよう集団指導を行う。	◎	○						○		3
理学療法学総合演習B	2	必修	○	基礎医学系及び臨床医学系の知識の統合を図り、疾患と障害の原因・本質・特徴などを講義、グループ演習の中で整理する。特にこの科目では運動器系の疾患と、それに起因する様々な障害について学び、各問題点に対する適切な治療法やリハビリテーションアプローチを論理的に導き出せるように指導する。教員の専門性を生かし、多方面からの視点での統合解釈ができるよう集団指導を行う。	◎	○						○		3
臨床実習Ⅰ（見学）	1	必修	○	早期の臨床経験として、実際に理学療法士が働く現場を見学する。特に本科目では、他者とのコミュニケーションを学ぶ場として、共感的態度を身につける。また、職場における理学療法士の役割と責任を知り、チーム医療や理学療法プロセスの実際を理解する。	○	◎	○	◎	○	○	○	○		3
臨床実習Ⅱ（検査・測定）	3	必修	○	評価実習の一つとして行う。見学実習で学んだ臨床体験を発展させるとともに、学内での学びを基盤とした知識・技術を統合して、臨床実習指導者の指導のもとに実際の対象者に理学療法評価に必要なリスク管理や検査・測定を経験する。	○	◎	○	◎	○	○	○	○		3
臨床実習Ⅲ（評価）	4	必修	○	検査・測定実習で得た経験と、学内で積み重ねた専門的な知識や技術を基にして、実際の現場において臨床実習指導者の指導のもと、理学療法評価のプロセスを学ぶ。実際に検査・測定を行うだけでなく、チームの一員として臨床に関わる。	○	◎	○	◎	○	○	○	○		3
臨床実習Ⅳ（総合）	10	必修	○	臨床実習指導者の指導のもとに、これまでに積み重ねた知識・技術をもってチームの一員として理学療法の一連の過程（リスク管理、理学療法評価、理学療法治療）を経験する。理学療法実施においては、指導者の見学・協働参加・監視を基本とする。	○	◎	○	◎	○	○	○	○		3
地域実習	2	必修	○	総合臨床実習の一部として実施する。本科目では、これまでに学んだすべての知識・技術を、地域理学療法場面に応用するために必要な経験の場となる。地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解する。また、臨床実習指導者の指導のもとに、チームの一員としての役割を知る。	○	◎	○	◎	◎	○	○	○		3

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

#### SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」

10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナーシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」